

道の駅「田野駅屋」再整備事業の進捗状況について

— 説明会資料 —

(令和7年2月)



田 野 町

はじめに・・・

「田野駅屋」は、道の駅の機能である「道路利用者の休憩場所」、「地域の物産販売」を主として、平成16年に道の駅として登録されて以来20年あまり、その役割を果たしてきました。

魅力ある商品の提供をもとに、年間20万人を超える来訪者を得て、生活、経済・観光振興等の面においても、今や私たちの生活に無くてはならない存在となり、田野町の自慢となる地域や観光を含めた交流拠点となりました。

しかし、その一方で、社会情勢の変化やニーズの多様化、交通ネットワーク整備の発展、インバウンド需要の高まり等、「田野駅屋」を含めた道の駅を取り巻く環境は大きく変化しており、道の駅が担う「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」、災害時や非常時における「防災機能」は、今後もその役割が増していくものと考えるほか、現在では、道の駅そのものが観光目的地の一つであり、地方創生の拠点と位置づけられる等、その重要性もますます高まっています。

また、道の駅「田野駅屋」は、交通網の大動脈である国道55号沿いに位置し、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線田野駅とも隣接しており、鉄道駅と道の駅と一体化した構造となっていることや、計画が進む「阿南安芸自動車道」において、本町へのインターチェンジの設置が確定しており、今後はこの強みを生かし、新たに地域外から「ヒト・モノ・カネ」を流入させるための取組みが求められているほか、災害時においては物資の集積・輸送の拠点としての役割も期待されているところであります。

そのような中、今後の地域・産業振興や観光振興にとって重要な役割を担う道の駅「田野駅屋」のハード面の課題・問題点として、20年経過に伴う施設の老朽化や「直販コーナー」を含む駅舎全体の空間が狭小であることによる回遊性の低さ、そして何より駐車スペースが不足していることによる入込客数の伸び悩み等が挙げられます。

これらの背景から、道の駅施設の魅力や利便性の向上を図り、交流人口の拡大、にぎわいの創出に寄与することを目指して、「田野駅屋」の再整備を検討することとなり、令和6年5月には道の駅「田野駅屋」再整備にかかる基本計画を策定したところであります。

再整備事業において、直接住民の皆さんに状況報告を行い、事業への理解を深めていただくとともに、再整備基本計画及び検討状況に対して広く住民の皆さんのご意見を聴取し、住民ニーズや地域の課題等を的確に把握しながら、事業の実現につなげていきたいという思いから、今回の住民説明会を実施するものであります。

道の駅について①

「道の駅」は、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設

【1】「道の駅」の機能(国土交通省HPより)

休憩機能

▶ 24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
子育て応援施設(ベビーコーナー等)

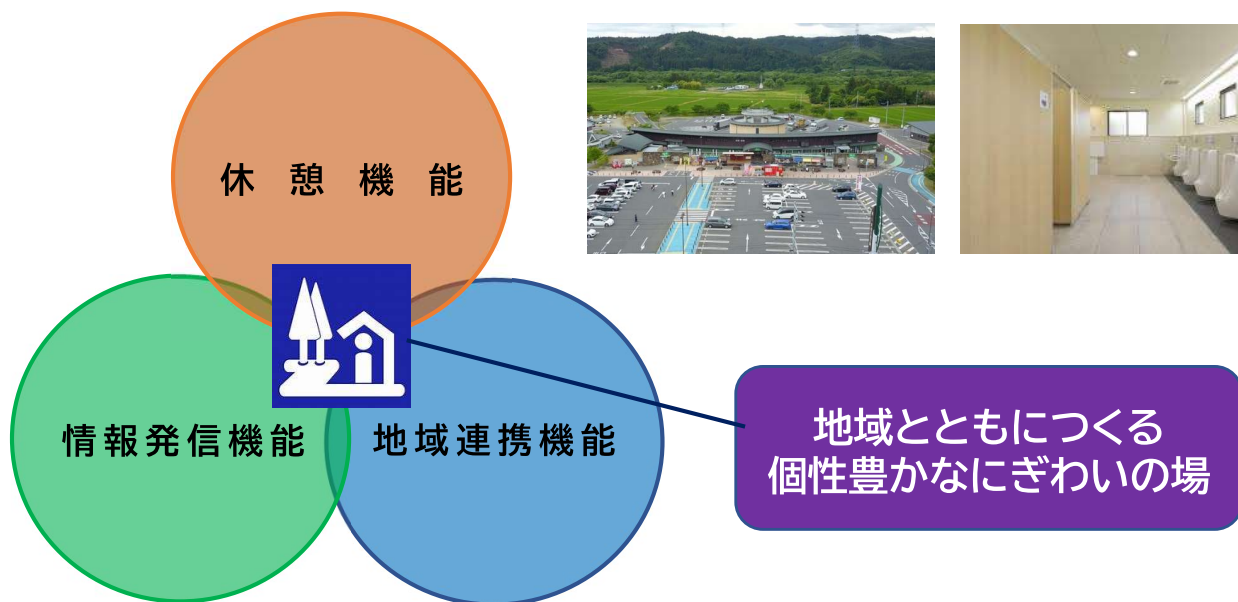
情報発信機能

▶ 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等を提供

地域連携機能

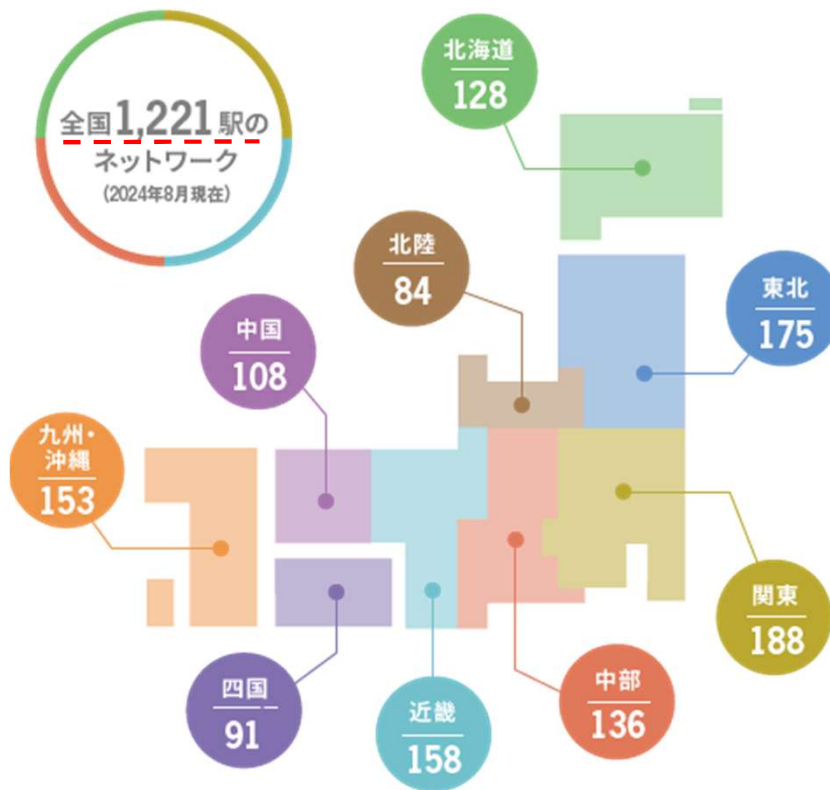
▶ 文化教養施設、観光レクリエーション施設等の
地域振興施設や防災施設

道の駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化等の情報発信や様々なイベントを開催することで利用者が楽しめるサービスも提供している。



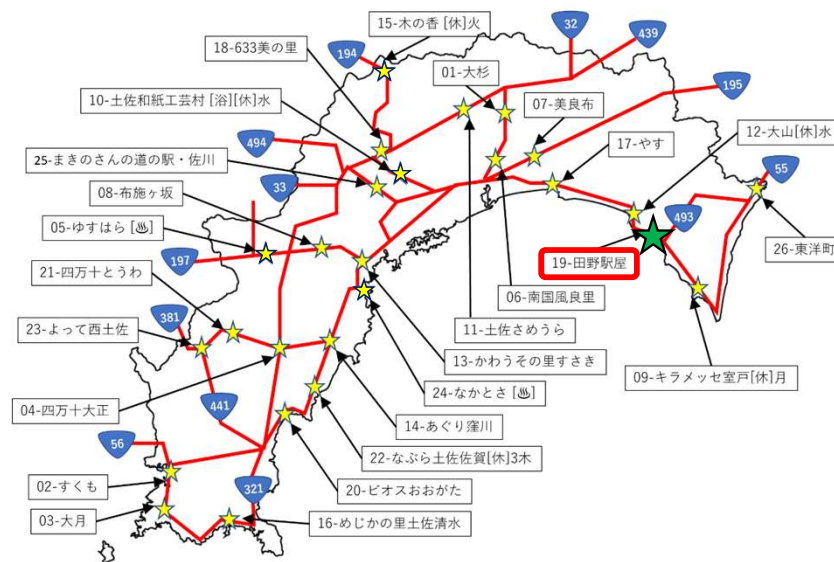
道の駅について②

【2】全国の「道の駅」設置数



令和元年度以降: 71駅(直近2年間: 23駅)が新規登録

【3】高知県の「道の駅」設置数



高知県全域: 26駅(うち安芸以東: 4駅)

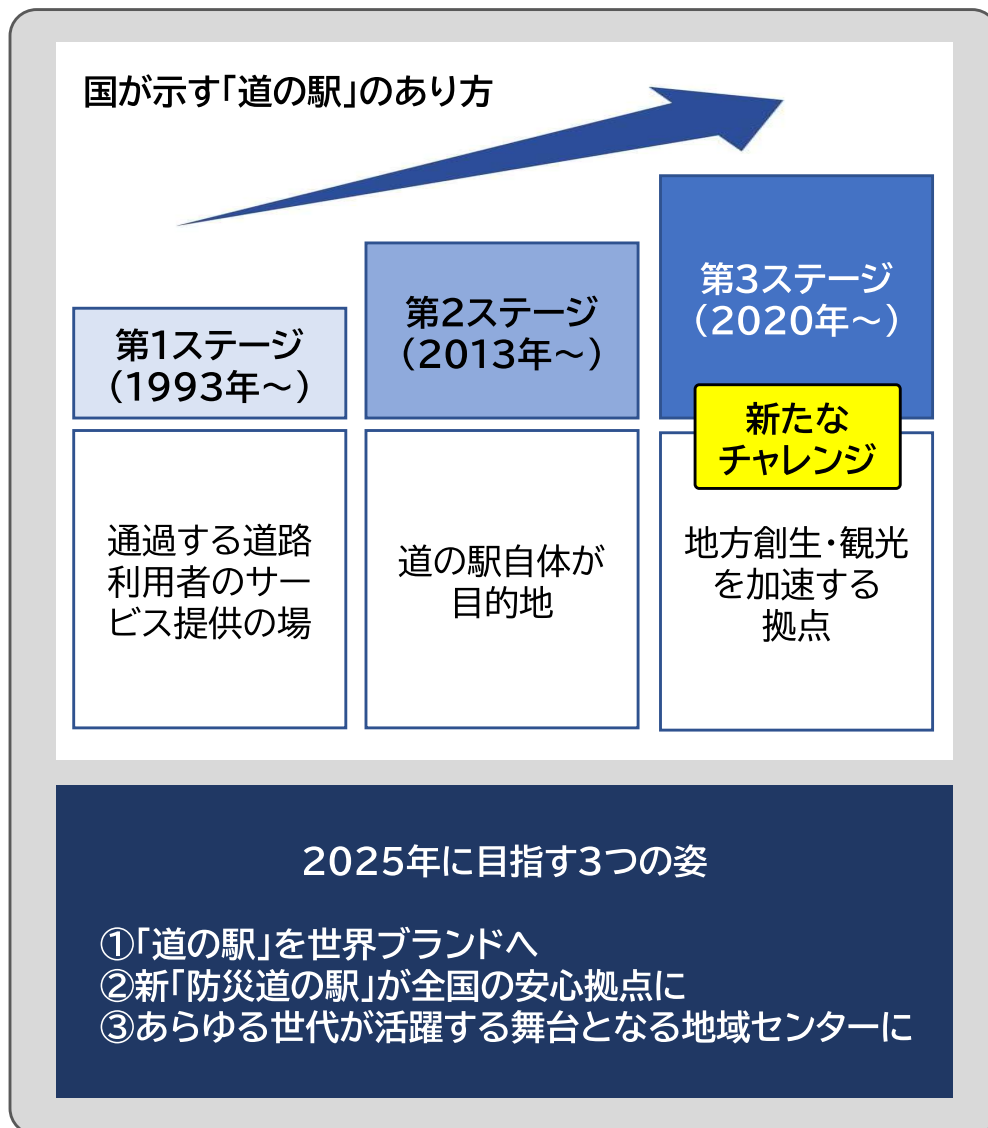
道路利用者
観光客の増加

地域振興
にぎわいの創出

令和5年以降で、リニューアル: 3駅、新規登録: 2駅

道の駅について③

【4】「道の駅」のステージ

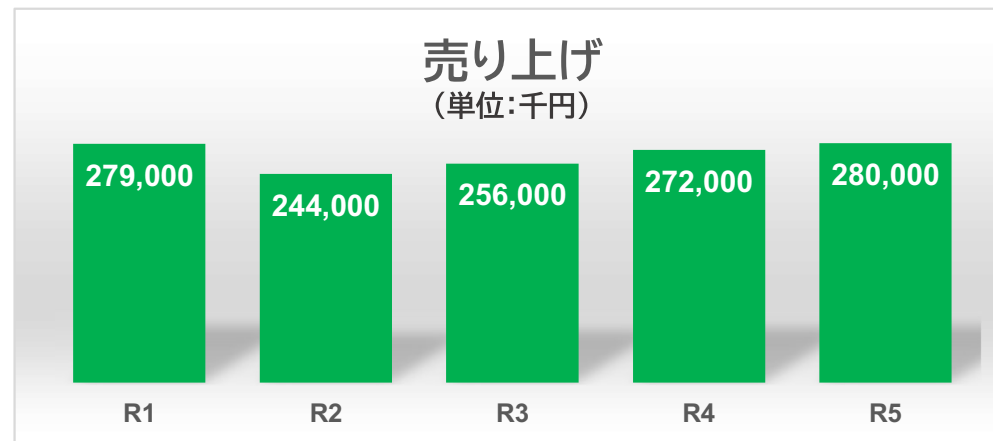
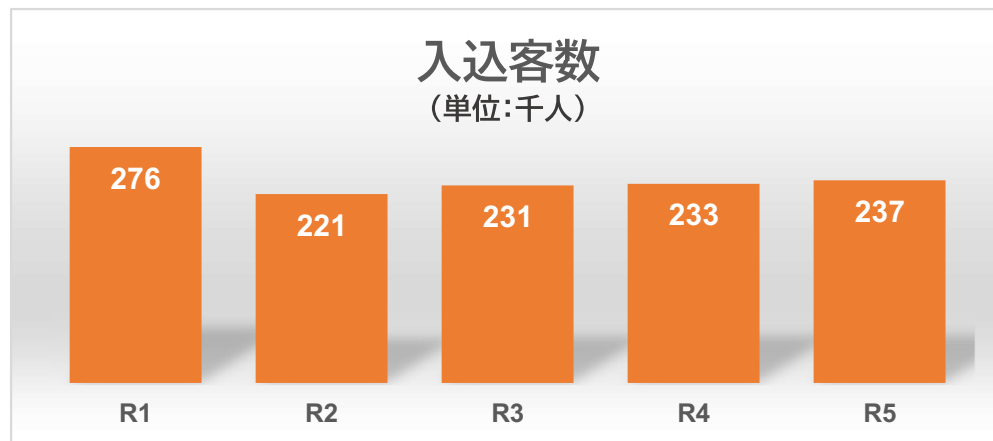


【5】「道の駅」の整備方法



道の駅「田野駅屋」について

【1】直近5年間(R1～R5)の実績



【2】「田野駅屋」の課題

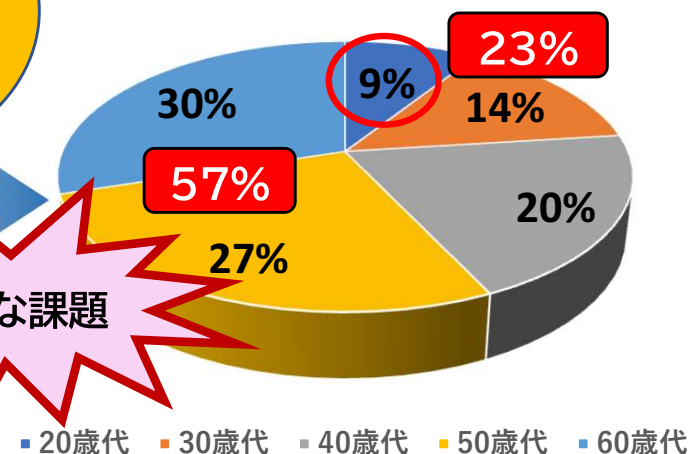
- ❶ 20年経過に伴う施設の老朽化。
- ❷ 直販コーナーを含む駅舎全体の空間が狭小であること。
- ❸ 駐車スペースが不足していることによる「入込客数」の伸び悩み。
- ❹ 来訪者の属性において、若年層が少ないこと。
- ❺ 来訪者の滞在時間が短い。

※来訪者の属性 + 滞在時間: ブログウォッチャー社(おでかけウォッチャー)提供

住民アンケートにおいても特に❷❸における同様の意見が多数あり。

大きな課題

❹ 来訪者の属性(年齢)



- ★安芸以東の道の駅で「田野駅屋」を除いた滞在時間(平均): 約25分
- ★R5に再整備した「めじかの里土佐清水」にかかる滞在時間の伸び: 約+18分
- ★国道から離れた場所にある道の駅「なかとさ」の滞在時間: 約30分

田野駅屋の滞在時間: 約17分

再整備にかかる基本計画について①

【1】基本計画の位置づけ

道の駅「田野駅屋」再整備にかかる基本計画は、現行の道の駅「田野駅屋」の課題をはじめ、田野町が抱える様々な課題の解消に向け、「田野駅屋」の施設の魅力や利便性の向上を図り、交流人口の拡大、にぎわいの創出に寄与することを目的とした施設再編の基本的な方針を定めるものである。また、想定される多様な利用者の目線を統合し、導入機能等の整備方針・方向性を示すとともに、事業手法の検討に加え、今後の事業の進め方を整理することを目的に策定したものであり…

計画策定時において各導入機能及び整備面積等が決定したものではありません。

【2】基本計画策定のプロセス

道の駅「田野駅屋」再整備基本計画の策定においては、アンケートやワークショップ、関係団体及び民間事業者への聞き取りによって住民意識や利用者ニーズを吸い上げた。また、実効性の高い計画となるよう、道の駅「田野駅屋」再整備基本計画策定検討委員会を設置し、外部組織(各種団体等)からの意見及び助言を取り入れた検討会を全5回にわたり開催し、計画として取りまとめたものです。

◆道の駅「田野駅屋」来場者向けアンケート
◆住民向けアンケート

◆子育て世帯対象ワークショップ
◆全町民対象ワークショップ

◆道の駅に関係する事業者・団体へのヒアリング

◆他の道の駅等を運営する民間事業者との対話

回数	実施日	策定検討委員会 次第(一部を抜粋)
第1回	R5.8.9	昨今の道の駅について 住民アンケートの項目について
第2回	R5.12.4	アンケート・ワークショップの結果報告 排水検討の状況報告
第3回	R6.2.29	サウンディング・ヒアリングの結果報告 施設レイアウト案の検討について
第4回	R6.3.29	道の駅「田野駅屋」再整備基本計画(案)
第5回	R6.4.30	パブリックコメントの結果・回答について 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画の策定

再整備にかかる基本計画について②

【3】アンケート・ワークショップ・関係者ヒアリング・事業者との対話の結果(一部を抜粋)

- ①何回でも行きたくなる、旅の目的のひとつとなり、人におすすめができるような素敵な場所となることを楽しみにしている。
- ②定期的に季節や流行に合わせたイベントを開催する等、田野町の活性化につながるような整備を望む。
- ③海が近いのに海産物が少ないのが残念。野菜等も種類・数量も多くして欲しい。
- ④老若男女が自然と集まり、学生や子ども達が立ち寄れるような工夫を。
- ⑤高速バスの誘致や市町村の枠組みを越えたイベントの実施等、高知県東部の拠点となっていくことを望む。
- ⑥子どもを遊ばせる公園がない。再整備するのであれば新たな子どもの遊び場を整備してほしい。
- ⑦「今のままで良い」となれば先はない。様々なアイデアをもって他とは違う特色(差別化)を期待している。
- ⑧県外、町外向けの整備も大切なポイントだが、町内の人により多く足を運びたくなる「場」としての機能を期待する。
- ⑨集客力のある魅力的な道の駅なので、更にアピールできるものがあれば、観光スポットとしても定着し、更に良い施設になる。
- ⑩他の道の駅にはない特色あるサービス、ここに来ないと得られない満足感を感じさせられるかが重要。
- ⑪品数、量、食事処が小さすぎ、もっと他の道の駅を参考にして、「行ってみたい」と思える道の駅を期待している。
- ⑫若い人の働き場が少ない。これから若い力が町を盛り上げていくためにも、地域のコミュニティの拠点として発展していったほしい。
- ⑬子ども向け施設・遊び場や食堂も大きくしてはどうか。遊んだあと食事ができると滞在時間も長くなり良いと思う。
- ⑭飲食レストラン・地元各種商品等、できるだけ多くの物品を確保し、雇用の場の拡大、中芸地域の活性化・観光情報の発信基地に。
- ⑮高速道路が完成すると通り過ぎてしまうことが心配なので、他の道の駅との差別化等、立ち寄ってもらえる魅力ある駅屋に。
- ⑯地域住民にとって必要な施設ができ、良い居場所が生まれたら、自然と外からも人が集まってくる。
- ⑰これから人口が減ってくるので、日常客と観光客両方をしっかり取り込むべき。
- ⑱立地がとても良い。食堂も周囲に飲食店がないので優位性がある。高規格道路もルートの室戸方面の拠点となる。
- ⑲ある道の駅は高規格道路から離れているが、わざわざ立ち寄りたと思うような施設である。そのような施設になれるかが大切。
- ⑳リピーター客がどれほどあるかが課題となる。周辺の市町村の人口が少ないことも大きな懸念材料である。
- ㉑現在の場所は水害等に強い立地なのかが不安。(裏側はよく浸水している)
- ㉒将来のバイパス整備に伴い道の駅は衰退するだろうし、近隣町村の人口が少ないので利用は少なく維持費が経営を圧迫する。
- ㉓現状維持で良い。地域住民人口が減る現状では、やみくもに拡大することには懸念がある。
- ㉔西の道の駅と比べると特産品が少ないと思う。活性化させるためには農産物の確保や新たな特産品の開発等も重要。
- ㉕現実を見ずに夢と理想で大金を使うのは浅はかなこと。現実的な規模でのプロジェクトを望む。
- ㉖再整備＝「広くする。」だけでは意味がない。リニューアルに人が集まるのは最初だけなので、継続的な将来性のある整備が必要。

再整備にかかる導入機能の考え方①

【1】導入機能の整備に向けた考え方

町の地域課題解決に向けた施策や「田野町総合計画・総合戦略」等により、取組みが重要視されている各施策は、個々に点で展開していても、その効果は薄く、パッケージとして展開していくことが望ましい。

道の駅「田野駅屋」は、直販施設を核として、飲食等の民間機能と公共サービスの要素を持ち、一定以上の「ヒト・モノ・カネ」を流入させつつ、地域課題の解決に向けた取組みが可能であることから、「田野駅屋」の再整備における導入機能の整備により、多くの施策が事業化(パッケージ化)可能であると考えており、その実現により田野町全体を見ても、道の駅施設のリニューアルだけにとどまらない高い政策効果が期待できると考えています。

このことから、道の駅「田野駅屋」の再整備においては、道路利用者や町外からの観光客だけに視点をおいたものではなく、「地域の小さな拠点」として、田野町の様々な課題を解決するための機能付加に加えて、子どもからお年寄り等、あらゆる世代が活躍できる舞台となる地域拠点及び地域住民が日常的に集う地域コミュニティの場の提供・整備の実現を目指します。

なお、各機能については、駐車場・トイレ・情報発信施設といった道の駅の基本機能に加えて、地域や利用者のニーズに合わせて、それぞれの機能ごとに導入(整備)の有無を検討するものであり、再整備基本計画策定時にいて、導入(整備)することを決定したものではありません。

今後において事業化を進めるにあたっては、他の道の駅等を実際に運営している民間事業者へのさらなるサウディング調査(対話)や役場内での協議等を踏まえて、絞り込みを行いながら決定していくものです。

再整備にかかる導入機能については、今後において各機能ごとに検討し決定していきます。

再整備にかかる導入機能の考え方②

【2】導入機能の整備に向けた具体的なイメージ(一部の機能)

機能名	イメージ図	機能イメージ	整備費負担	運営費負担	考え方
子育て支援機能		保育士等が常駐せず、子育てママパパが子どもと一緒に遊ぶことができるキッズプレイスペース。	行政	民間	3つの機能の運営に関しては、道の駅スタッフが業務を兼務して対応できると想定し、運営費についても民間側で対応していただく方向で事業者との対話を進める。また、定期的なイベントの開催やマルシェ等をどこまで盛り込むか等、調整必要。
加工場 調理場		道の駅運営事業者が新商品をつくり、仕入れた野菜等を加工品にするためのキッチン・調理場。	行政	民間	
コミュニティ スペース		レストランのフードコートと一体的に運用し、かつイベントスペースとしても活用できる等、地元の人が交流できる可変性を持ったスペース。	行政	民間	
公園・緑地		高齢者や子ども、家族連れの憩いの場所とすることに加えて、雨水貯留機能も兼ねるもの。	行政	行政 民間	維持管理費用としては、基本的には行政が負担する方向。
レストラン 物販ショップ カフェ		レストラン・物販(直販含む)・カフェ	行政	民間	運営は民間側で実施するが、賃料等をどのように設定するか等の経済条件は今後検討。

再整備にかかる配置イメージ



再整備にかかる概算事業費と町の実質負担額

【1】道の駅「田野駅屋」再整備にかかる基本計画策定時点



【2】上記【1】による町の実質負担額



【3】今後の協議・検討による事業費のイメージ



再整備における「Q&A」①

質問① 整備規模が大きすぎるのではないか？

道の駅「田野駅屋」の北側においては、多くの雨が降った際に浸水している状況であり、水路の改修を含めた排水対策が課題となっていることから、再整備における「内水対策」と周辺地域の「排水対策」をあわせた「遊水エリア」を整備することで貯留機能を持たせる考えがあることから、一定の整備面積が必要と考えています。

質問② 高規格道路の延伸により道の駅も素通りとなるのでは？

道の駅「田野駅屋」は鉄道駅と道の駅とが一体化した特殊な構造となっていることに加えて、高規格道路についても再整備計画地のすぐ北側を通過する予定であり、他にはないとても良い立地であります。これらの強みを最大限に活かす整備を行うことで、素通りさせない、新たな属性(若者・子育て世帯・外国人観光客等)の目的地を目指します。

質問③ 人口減少及び少子高齢化により将来的に負債財産となるのでは？

人口減少等は大きな課題であり、国・県を含めて自治体ごとに様々な施策により、当該課題に立ち向かっています。本町は「田野駅屋」の集客力を最大限に活かした取組みを進めることで、高い政策効果が期待できることから、まちづくりの中核的な展開を行いながら、日常客と観光客の両方をしっかりと取り込んでいくことが重要と考えています。

質問④ 整備後の運営費や維持費を含めた収支の試算は？

整備計画を進めていくうえでも非常に重要な視点であり、専門家による試算も行いながら、最終的な導入機能の決定等に係る根拠数値・協議資料として活用します。なお、再整備においては、民間事業者のノウハウを活用する方向で進めており、事業者の提案から集客や収入を伸ばすことに加え、運営費や維持費の抑制を図ります。

再整備における「Q&A」②

質問⑤ 運営事業者(運営方法)はどうなるのか？

直販、食堂に限らず、その他の機能も含めた施設全体の運営規模拡大が予想され、現状以上の体力が求められることから、現時点では現運営会社がそのまま引き継ぐことは難しいと考えています。ただし、地域内雇用の継続や拡大(若者含む)は重要であり、これまでの経験やノウハウを今後も活かすことができる方法等を確立していきます。

質問⑥ 人気の高い道の駅には「目玉となる特産品」があるが、新商品等の開発目途は？

現在の「田野駅屋」の商品が継続して出品されることと事業承継の取組み等に加えて、生産者との定期的な対話等により「田野駅屋」の集客力を活かした更なる販売促進や戦略立案、eコマース(インターネット販売)の導入等、出品者の売上向上等に取り組みながら、新たな出品者の増加や新商品の開発を促進していきます。

質問⑦ 施設を大きくしても人口減少や高齢化、担い手不足により生産者が減るのでは？

再整備後の豊富な品揃えとしていくため、現在の出荷者等との対話により、現行の課題解消(例えば、出品物の売れ残りへの対応等)に取組み、引き続き出品してもらえる体制づくりを進めていくことに加えて、庭先集荷等への対応により高齢者の方でも気軽に出品できる体制づくりを進め、高齢者の生きがいづくりや所得向上にもつなげていきたいと考えています。

また、一定のルールづくりは必要であると考えていますが、町内外の農商工団体も含めた商品供給体制の構築が必要であると考えています。

なお、新たな支援策も含めて事業承継及び新規出品者の獲得に向けた取組みを加速させていきます。

いずれにしても、再整備後の管理運営に携わる事業者とともに、新たなルールづくりやより良い売り場づくりの実現を目指しながら、生産者を増やし、担い手の確保にもつなげていく考えであります。

再整備にかかるスケジュール

区分	内容	令和6年度				令和7年度				令和8年度				令和9年度				令和10年度			
整備・管理運営事業者選定	公募資料の作成																				
	公募・事業者決定・契約																				
用地取得	測量																				
	用地買収 (意向調査含む)																				
造成	実施設計																				
	造成工事																				
建築	建築設計																				
	建築工事																				
供用開始																					

開駅に向けた準備

令和10年度中の開駅を目指します

整備方法(国・県との一体型整備)や事業手法(民間事業者のノウハウを設計・施工・運営の一括発注)の導入内容や各事業等の進捗等により、上記のスケジュールは変更となる可能性があります。

おわりに・・・

地域高規格道路においては、県東部でも徐々に整備が進んできており、将来、田野町も含めて高規格道路が全線開通した場合には、国道55号利用の減少等、車の動きは大きく変化していきます。

また、全国的にも徐々に道の駅が新設、改良され、従来の休憩機能や直売機能だけではない特色を出しています。

今後いかに観光を含めた道路利用客を呼び込めるか、その対応を図り地域振興へとつなげていくことが重要であります。

田野町は、地理的にも中芸地域の生活交流拠点と言える町であり、歴史的にもその役割を果たしてきており、交流拠点という要素は、言わばこの町の強みであります。

人口減少等、様々なスケールの変化により、今までは出来ていたことが出来なくなってきたことも増えたと思います。これからは町の政策として取り組む事業についても、より一層、取捨選択すべき時代になってきます。

こういった時代背景のなか、この町の将来を考えると、何を選択すべきかという、やはり得意分野を磨き上げていく施策に注力すべきであると思います。

道の駅「田野駅屋」が果たす地域交流拠点としての役割は、まさに田野町の得意とするところであり、磨き上げることによって、町内だけでなく、更に広範囲な地域の交流拠点として活躍できる場となることが、田野町の強みをさらに引き上げ、「小さくても魅力のつまった町」と言える、将来の中心的要素になると考えています。

メモ用紙